

第4回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告書

第4回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

第4回福祉用具専門相談員研究大会概要

- 【開催日】 令和5年6月22日（木）
- 【大会テーマ】 持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割
～ 福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践 ～
- 【会場】 KFCホール（東京都墨田区横網1-6-1）
※オンライン併用
- 【主催】 第4回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
- 【共催】 一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会
- 【大会長】 小野木 孝二（一般社団法人日本福祉用具供給協会 理事長）
- 【副大会長】 記虎 孝年（関西シルバーサービス協会 理事長）
- 【大会概要】 特別講演1題・口述発表38題
- 【参加者数】 1,319名（現地参加360名、オンライン参加959名）
- 【後援】 厚生労働省、東京都保健福祉局
（一社）回復期リハビリテーション病棟協会、（公社）関西シルバーサービス協会、
（一社）こうしゅくゼロ推進協議会、国際医療福祉大学大学院、姿勢活動ケア研究会、
（一財）JASPEC、（一社）シルバーサービス振興会、（公社）全国国民健康保険
診療施設協議会、（一社）全国デイ・ケア協会、全国福祉用具相談・研修機関協議会、（公
社）全国老人福祉施設協議会、（公社）全国老人保健施設協会、（公財）テクノエイド
協会、（特非）東京都介護支援専門員研究協議会、（一社）ナチュラルハートフルケア
ネットワーク、（公社）日本医師会、（一社）日本介護支援専門員協会、（公社）日本介
護福祉士会、（一社）日本義肢協会、（公社）日本義肢装具士協会、（一社）日本車椅子
シーティング協会、（一財）日本車椅子シーティング財団、（一社）日本ケアマネジメ
ント学会、（一社）日本言語聴覚士協会、（一社）日本在宅介護協会、（一社）日本作業療
法士協会、（公社）日本社会福祉士会、（一社）日本褥瘡学会、（一社）日本生活支援工
学会、（一社）日本ノーリフト協会、（一社）日本福祉用具・生活支援用具協会、（公
財）日本訪問看護財団、（公社）日本理学療法士協会、（公社）日本リハビリテーショ
ン医学会、（特非）日本リハビリテーション看護学会、（一社）日本リハビリテーショ
ン工学協会、（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会、福祉用具プランナー研究
ネットワーク※50音順

第4回福祉用具専門相談員研究大会 開催報告

大会テーマ：持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割

～ 福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践 ～

令和5年6月22日（木）、第4回福祉用具専門相談員研究大会を開催いたしました。

遠方からも参加しやすいよう、前回大会同様に現地とオンラインのハイブリッド開催といたしました。その結果、前回大会を上回る1,319名（うち現地会場360名）と大変多くの方々にご参加をいただき、盛会のうちに終えることができました。

開会にあたり、小野木大会長からは「介護保険が財政逼迫、人材不足の2つの観点から危機に直面しているが、福祉用具はこの2つの危機を解消する社会的な役割を果たせるものであるからこそ正しい福祉用具を正しいタイミングで提供していくことが重要であり、科学的なエビデンスが求められる」と大会テーマに基づいた挨拶がありました。

そして、来賓を代表して厚生労働省高齢者支援課福祉用具・住宅改修指導官の内田正剛様よりご祝辞を賜りました。

続く特別講演では、埼玉県立大学理事長の田中滋様より「医療・介護の変容と将来：30年間の進化を踏まえ2040年に備える」をテーマに、人手不足がより深刻化する2040年を見据えた介護業界のあり方などを分かりやすくご講演いただきました。

午後からは3つの会場に分かれて口述発表がそれぞれ実施されました。

第一会場では勝平純司座長による口述1「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」、山下陽子座長による口述4「科学的な介護の実践」の発表が行われました。

第二会場では、淵上敬史座長による口述2「福祉用具安全利用に向けた取組」、高砂裕子座長による口述5「地域・多職種連携・事業所の取組」の発表が行われました。

第三会場では、畠山浩座長による口述3「経験3年未満相談員の福祉用具導入事例」の発表が行われたあと、老健事業のセミナーや報告が行われました。

全ての演題発表が終了した後、第一会場においてシンポジウムが開催され、5名の座長がシンポジストを、コーディネーターを東畠弘子氏（国際医療福祉大学大学院教授）が務めました。シンポジウムでは各口述発表の総括に始まり、大会テーマを通じた福祉用具専門相談員に対する提言や、次回大会に向けた問題提起やエールをいただきました。

最後に閉会式では、第5回大会の大会長を務める記虎孝年副大会長が、第4回大会が無事終了したことに対する御礼と、第5回大会の予告及び抱負を述べて第4回大会は幕を閉じました。

第4回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【開会式】

10:00~10:30

(第一会場)

開会挨拶 小野木孝二大会長



来賓挨拶 厚生労働省老健局高齢者支援課 内田 正剛 様



【特別講演】

10:30~11:30

(第一会場)

講師 埼玉県立大学理事長・慶応義塾大学名誉教授 田中 滋 様

演題 「医療・介護の変容と将来：30年間の進化を踏まえ2040年に備える」



第4回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表1】効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働

(第一会場) 12:40~14:05

座長：東洋大学 福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科 教授 勝平 純司 氏

考察と今後の課題

- 福祉用具専門相談員が難聴の在宅要介護高齢者に関わった経験は、88.2%と非常に高かった。
- 難聴を有する利用者への福祉用具の説明時の影響に関する意識は、約99.1%と非常に高かった。
- 難聴を有する利用者への福祉用具の説明時の影響に関する意識は、福祉用具専門相談員約9割と非常に高かった。

聞こえ状態を考慮した使い方の説明について配慮する必要性が示唆された。今後は専門相談員への高齢者の難聴に関する研修も求められているものの、導入コストの負担軽減が必要であると考える。利用者の福祉用具の利用方法に関する理解度の低さは、事故につながる可能性もあるので環境整備が必要であると考える。

1. 経費別 2. 距離別 シングルユーザー型 3. 訪問員行き
4. 電動アシスト 5. 買い物かご付き 6. 前後向き対応

【口述発表2】福祉用具安全利用に向けた取組

(第二会場) 12:50~14:05

座長：株式会社ウィズ ASチーム 課長 淵上 敬史 氏

背景その3

- 福祉用具専門相談員がどのように利用者に関わり、どのような役目を果たしているかはあまり知られておらず、世間的な認知度も低いと感じる。

福祉用具専門相談員として関わり、筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者である利用者の事例を紹介する。

クアーズジャー 67.4%
福祉用具専門相談員 1.2%

【口述発表3】経験3年未満相談員の福祉用具導入事例

(第三会場) 12:50~14:05

座長：エイジライフ株式会社 営業部 統括課長 畠山 浩 氏

考察

歩行状態の数値化で、歩行の問題点を把握し、改善意識を持つ

自身の歩行、今後の身体について考えるきっかけとなる

「ななく元気に健康でいたい！」という意識が高まる人を増やす関わりができた。

地域で信頼される質の高い専門相談員として地域包括・CMからの評価UP

【口述発表4】科学的な介護の実践

(第一会場) 14:25~15:50

座長：アルジョ・ジャパン株式会社 マーケティング部クリニックトレーナー 山下 陽子 氏

6. Allは感情を理解できる？

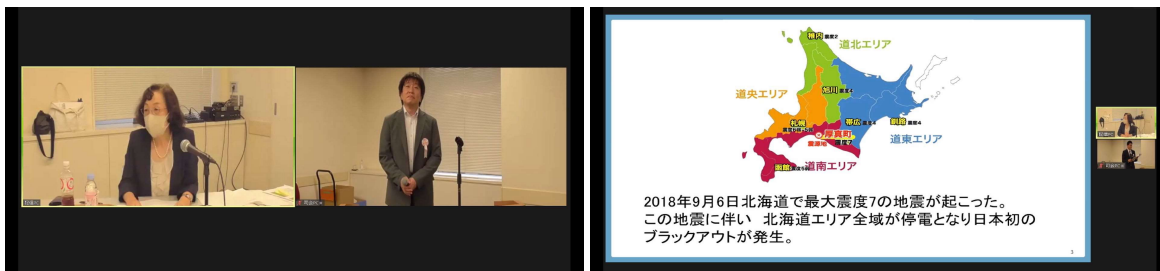
- 車椅子や電動歩行器などがあります。
- 車いすか…本人は歩きたいんだけど？
- 身体的能力から最適な用具を選んだ場合、車いすが…また、電動歩行器の場合…
- 知人にも気を遣わせたくないんだけど？
- これらの商品は一般的な歩行器に比べて重く…
- もっと手軽で、具体的な商品を教えて。
- 申し訳ありません、商品広告に該当するの…

第4回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【口述発表5】地域・多職種連携・事業所の取組

(第二会場) 14:25~15:50

座長：一般社団法人南区医師会 居宅介護支援センター 管理者 高砂 裕子 氏

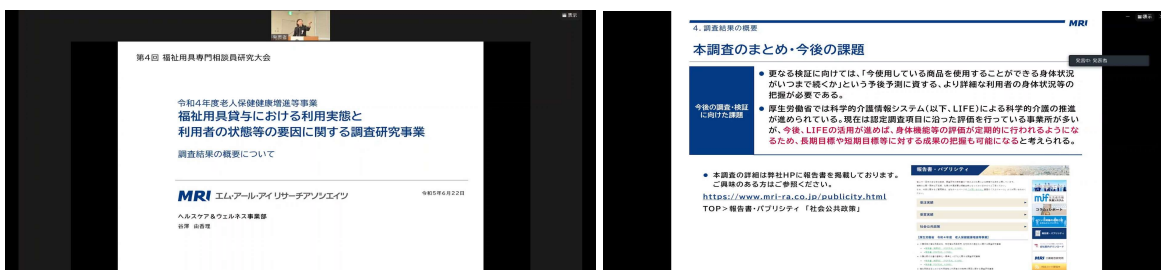


【事業報告】 老健事業特別セミナー

14:25~14:55

(第三会場)

発表者：EM・アール・アイ リサーチソリュティ株式会社 谷澤 由香理 氏

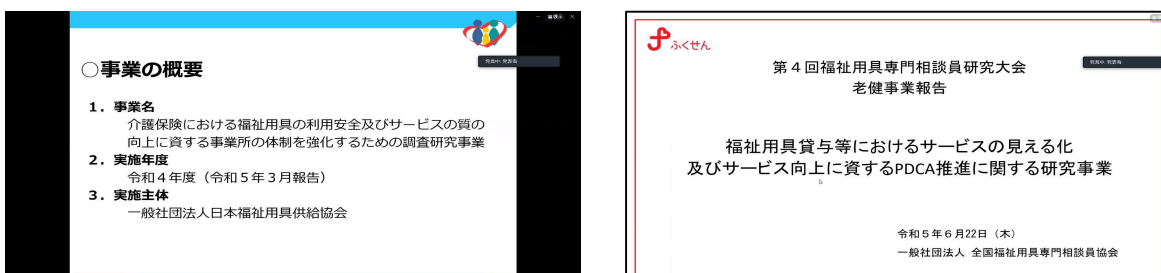


【事業報告】 老健事業報告

14:55~15:35

(第三会場)

報告者：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会



【ランチョンセミナー】

14:55~15:35

(第三会場)

協賛：シーホネンス株式会社
パラマウントヘルスケア総合研究所



第4回福祉用具専門相談員研究大会プログラム

【シンポジウム】

16:10~17:20

(第一会場)

コーディネーター：東島弘子氏

シンポジスト：勝平座長、淵上座長、畠山座長、山下座長、高砂座長



【閉会式】

17:20~17:30

(第一会場)

閉会挨拶 記虎孝年副大会長



第4回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表1【効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働】

座長：勝平 純司 氏（東洋大学福祉社会デザイン学部人間環境デザイン学科教授）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	中石 真一路	ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社	在宅介護高齢者の難聴の有無が、福祉用具専門相談員の福祉用具説明時に及ぼす影響 －福祉用具専門相談員のアンケート調査より－
2	霜出 拓邦	株式会社カクイックスウィング	オンライン上コミュニケーションツールの積極的活用による多職種連携と福祉用具導入事例 タイムリーな用具導入と楽する時短メソッド
3	巖 英二	パラマウントベッド株式会社	要介護者に対する特殊寝台の福祉用具貸与の有効性の調査研究（アンケートと操作履歴を活用した特殊寝台の利用実態の調査研究）
4	小寺 紀之 重政 亮太	株式会社ヤマシタ	継続した在宅介護を可能とする介護リフト導入事例について
5	小泉 美紀	株式会社カクイックスウィング	介護老人福祉施設でのロボット導入における現状と課題
6	塩入 隆広	株式会社カクイックスウィング	進行性疾患の利用者への排泄支援に関する取組（排泄問題の解決が在宅生活継続と活動性向上のカギ）
7	杉村 和彦	株式会社トーカイ	独居高齢者が要介護1から自立に至るまでの約12年間の記録と福祉用具の効果
8	池田 信也	株式会社トーカイ	冬季における歩行器の利用状況調査と環境・ニーズの相関傾向の考察

口述発表2【福祉用具安全利用に向けた取組】

座長：淵上 敬史 氏（株式会社ウィズ ASチーム課長、作業療法士、介護支援専門員）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	近藤 大輔	株式会社ヤマシタ	階段昇降機と転倒予防に向けた手すりの導入事例
2	八木 梓	株式会社ヤマシタ	「なんとかこの家で生活を続けたい」、1年間転倒せず生活できた福祉用具サービス
3	佐藤 聡志	株式会社同仁社	利用者状態の変化に合わせた福祉用具の提案事例
4	佐藤 啓孝	株式会社柴橋商会	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の利用者における福祉用具の必要性の検討
5	川野 友裕	株式会社カクイックスウィング	日常生活用具、住宅改修費給付制度における環境整備の事例報告（介護保険制度での福祉用具導入との違い）
6	吉岡 徹	日本基準寝具株式会社	福祉用具専門相談員の定期訪問が担保する、福祉用具の安全利用
7	小島 みさお	国際医療福祉大学大学院	特定福祉用具販売種目購入後のモニタリングおよびメンテナンスに関する実態 －福祉用具専門相談員のアンケート調査から－

第4回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表3【経験3年未満相談員の福祉用具導入事例】

座長：畠山 浩 氏（エイジライフ株式会社 営業部統括課長、福祉用具専門相談員）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	工藤 博	株式会社マルベリー	介護老人福祉施設における最先端ロボットを用いたの社会実装（除菌作業、夜間巡視をAI搭載人型ロボットでの代替）
2	石井 介樹	株式会社ヤマシタ	歩行解析アプリ『トルト』を活用した地域サロンでのフレイル予防の取り組み （福祉用具貸与事業者のフレイル予防・ADL・QOLの維持改善の取り組み）
3	村木 円香	株式会社フロンティア	車いすシーティングの評価とリフトを用いた疼痛へのアプローチ（安定座位姿勢の獲得を図り、食事動作の改善へ繋がった事例）
4	植木 涼平 松尾 峻作	株式会社ヤマシタ	進行性核上性麻痺の利用者への用具・住宅改修の段階的アプローチ
5	古閑 沙織	株式会社ランダルコーポレーション	転居に伴う居住環境整備の事例紹介
6	田中 慶之	有限会社猪木酸素	ハンドル型電動車いす導入により、独居高齢者の自立支援に繋がった事例
7	熊崎 峻弥	株式会社トーカイ	在宅復帰困難と思われた難病罹患者の在宅復帰への取り組み

口述発表4【科学的な介護の実践】

座長：山下 陽子 氏（アルジョ・ジャパン株式会社 マーケティング部クリニカルトレーナー、元厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官、作業療法士）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	中田 賢	株式会社ヤマシタ	利用者の本音（望むこと）を汲み取った提案がもたらす効果
2	布施 貴幸	エイジライフ株式会社	モニタリングにおける再評価とアセスメントの重要性について（FIMでの再評価によりQOL改善に繋がった事例）
3	生沼 拓馬	株式会社トーカイ	介護保険対象の福祉用具と対象外の福祉用具を併用・活用した自立支援に向けた取り組み （生活の質を考慮したトータルコーディネート）
4	山本 尚哲	株式会社カクイックスウィング	福祉用具導入による介護施設職員の腰痛改善の効果検証
5	小田嶋 賢	株式会社かんきょう	モニタリングにおける数値評価ツールの活用について（評価スケールや分析アプリを、経験年数の少ない社員も使いこなせる仕組み作り）
6	大田 健介	株式会社カクイックスウィング	評価スケールを福祉用具に取り入れたことで得られた結果と活用方法について （理学療法士経験を生かした福祉用具評価の見える化）
7	萩原 里咲	株式会社ヤマシタ	スライディングボードの利用による効果 （訪問介護と福祉用具貸与の導入について比較検討した事例）
8	吉村 忠寿	株式会社ヤマシタ	AI技術の活用による福祉用具選定の妥当性 （科学的技術の導入による福祉用具専門相談員の業務効率化を考える）

第4回福祉用具専門相談員研究大会 発表者・演題一覧

口述発表5【地域・多職種連携・事業所の取組】

座長：高砂 裕子 氏（一般社団法人南区医師会 居宅介護支援センター管理者）

No.	発表者	所属	演題（副題）
1	高橋 成太	フランスベッド株式会社	コロナ禍において福祉用具専門相談員として多職種間を繋げるための取り組み
2	竹崎 修一	有限会社スマイルケア	防災福祉まちづくりにおける福祉用具専門相談員が担う役割について (京都市菊浜学区での取り組みより)
3	上田 啓輔	株式会社マルベリー	災害時における福祉用具供給と自治体との連携 (福祉用具を通じてつながる地域)
4	平尾 知義	株式会社マルベリー	理解を深めるための、小・中学生に向けた福祉用具の体験型授業の実施
5	福田 和也	株式会社ウィードメディカル	新規訪問先での注意点、他職種への報告方法について
6	行田 壮一郎	株式会社ヤマシタ	「退院前支援サービス」の有効性とその多職種連携における福祉用具専門相談員の役割
7	山田 健太	株式会社同仁社	組織の見える化と人材育成
8	田村 知之	株式会社サンメディカル	お客様のために成果を発揮できる社員の育成に向けた取り組み (人材の育成と働き甲斐のある組織づくり)

第4回福祉用具専門相談員研究大会 参加者アンケート集計結果

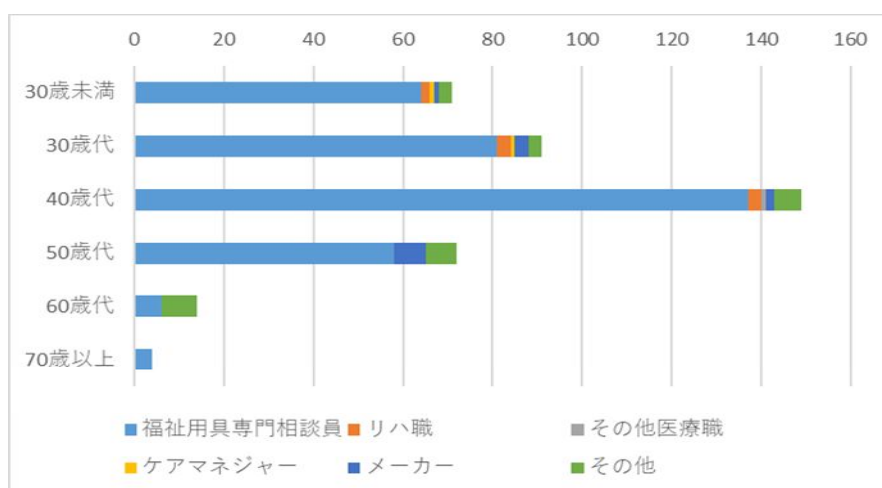
アンケート概要

- 実施時期：2023年6月22日（木）～30日（金）
- 調査方法：eメールによるwebアンケート様式の配布・回収
- 回収状況：発送数1,198人／回収数401人／回収率33.5%

1. 回答者の基本属性について

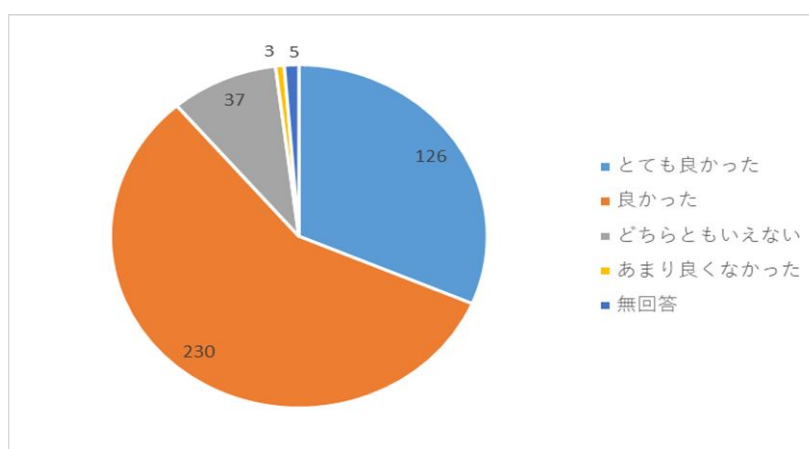
(単位：人)

	30歳未満	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	総計	構成比
福祉用具専門相談員	64	81	137	58	6	4	350	87.3%
リハ職	2	3	3	0	0	0	8	2.0%
その他医療職	0	0	1	0	0	0	1	0.2%
ケアマネジャー	1	1	0	0	0	0	2	0.5%
メーカー	1	3	2	7	0	0	13	3.2%
その他	3	3	6	7	8	0	27	6.7%
総計	71	91	149	72	14	4	401	100.0%
構成比	17.7%	22.7%	37.2%	18.0%	3.5%	1.0%	100.0%	



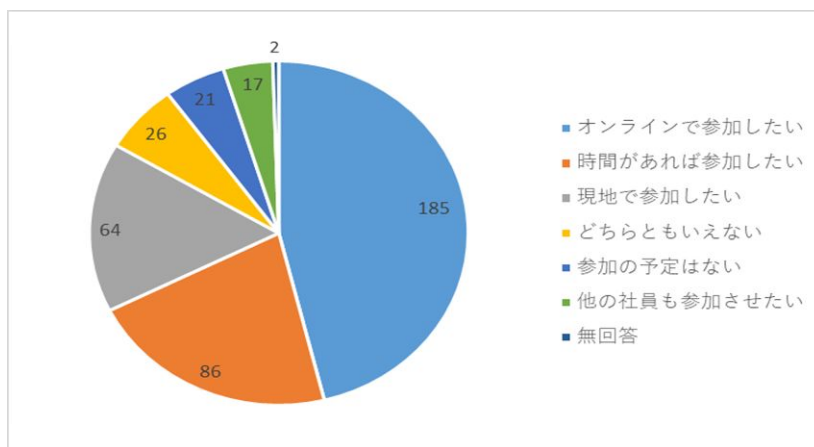
2. 全体の感想について

	人数	構成比
とても良かった	126	31.4%
良かった	230	57.4%
どちらともいえない	37	9.2%
あまり良くなかった	3	0.7%
無回答	5	1.2%
総計	401	100.0%



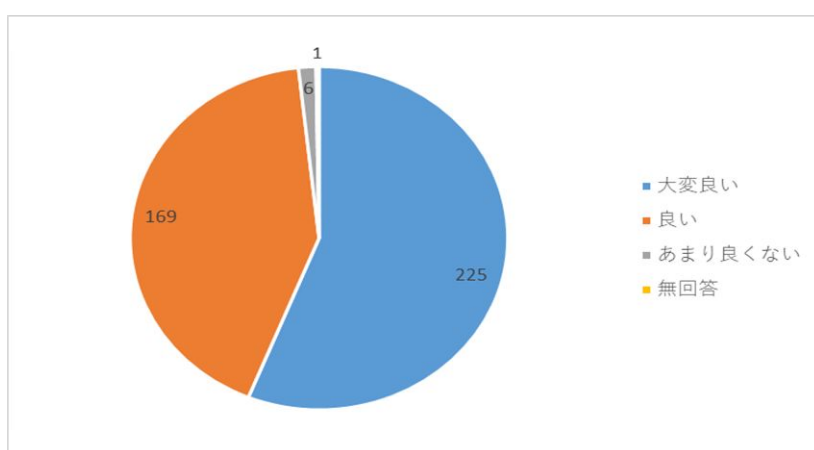
3. 次回の参加について

	人数	構成比
オンラインで参加したい	185	46.1%
時間があれば参加したい	86	21.4%
現地で参加したい	64	16.0%
どちらともいえない	26	6.5%
参加の予定はない	21	5.2%
他の社員も参加させたい	17	4.2%
無回答	2	0.5%
総計	401	100.0%



4. オンライン併用の開催方法について

	人数	構成比
大変良い	225	56.1%
良い	169	42.1%
あまり良くない	6	1.5%
無回答	1	0.2%
総計	401	100.0%



5. その他ご意見など（自由記述）

回答	人数
今後のサービスの質向上に活かしたい	7
アーカイブ視聴できるところが良い	7
今後も継続して開催してほしい	6
現地で交流が図れて良かった	5
運営がスムーズだった	4
オンラインで参加できて良かった	4
発表の水準が上がっていると感じた	3
時間がタイトに感じた	3
今後もエビデンスを追求してほしい	3
各発表時間が短く感じる	3
オンラインにて会場による音量が異なった	2
その他	13
総計	60

第4回 福祉用具専門相談員研究大会のご案内

／(一社)日本福祉用具供給協会

来る2023年6月22日(木)、第4回福祉用具専門相談員研究大会がKFCホール(国際ファッションセンター)にて開催される。第4回研究大会のテーマは「持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割(福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践)」。介護保険制度の持続性を担保するためには、福祉用具の更なる活用が求められている。研究大会を通じて、より効率的で有効なサービスを提案できる専門相談員の育成を目指す。

大会長：小野木 孝二(日本福祉用具供給協会 理事長)
主催：第4回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会
共催：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具



問合せ先/事務局(日本福祉用具供給協会) TEL:03-6721-5222
URL:https://www.fukushiyougu.or.jp/topics/kenkyutaikai/

福祉介護テクノプラス 2023年2月号

第4回福祉用具専門相談員研究大会 開催

／福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

「持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割～福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践」をテーマに、第4回福祉用具専門相談員研究大会が開催される。

開催日：2023年6月22日(木)
会場：KFCホール(国際ファッションセンター)
東京都墨田区横網一丁目6番地1号
共催：一般社団法人日本福祉用具供給協会
一般社団法人全国福祉用具専門相談員協会



問合せ先/日本福祉用具供給協会事務局 TEL:03-6721-5222

福祉介護テクノプラス 2023年7月号

小野木大会長は大会
今月22日、「第4回福祉用具専門相談員研究大会」が都内で開催される。主催は第4回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会(大会長・小野木孝二、日本福祉用具供給協会理事長)。

福祉用具専門相談員研究大会 22日に第4回大会 科学的介護テーマに

メッセージで、「今年(2024年)の介護報酬改定に向けた「重要な年」、「介護保険制度の持続性を担保するためには、福祉用具のさらなる活用が求められている」と、少子高齢化社会における福祉用具の意義を強調した。

当日は、田中滋瑠玉(墨田区)オンライン聴講可。

立大理事長が「医療・介護の姿と将来…30年間の進化を踏まえ2040年に備える」と題して特別講演を行う。また、大会テーマに即して、東大大学院教授のコーディネーターのもと、5人の登壇者がシンポジウムを行う。午前10時～午後7時15分。

場所はKFCホール(墨田区)。オンライン聴講可。

問い合わせは03・6721・5222または03・5418・7700。

シルバー新報 2023年6月16日号

「第4回全国福祉用具専門相談員研究大会」開催

KFCホール(オンライン併用) / 6月22日(木)

6月22日(木)に東京都墨田区のKFCホール(国際ファッションセンタービル)で「第4回全国福祉用具専門相談員研究大会」が開催される。口述発表では、効果的

な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働で福祉用具安全利用に向けた取組や科学的な介護の実践、専門相談員の実践や知見、調査結果を公表する。本特集では、登壇者への事前インタビューで見どころや意気込みを聞いている。

テーマ① 「経歴3年未満相談員の福祉用具導入事例」

マルベリー 工藤 博さん

「経歴3年未満相談員の福祉用具導入事例」について、マルベリー 工藤 博さんが講演する。工藤さんは、経歴3年未満の相談員として、福祉用具の導入に悩む利用者や家族へのサポートを行っている。具体的な事例として、高齢者の転倒防止のために、歩行補助具や手すりなどを導入した事例を紹介する。また、相談員としてのスキルアップや、福祉用具メーカーとの連携についても触れる。



最先端機器で施設の課題解決

最先端機器の導入により、施設の課題を効果的に解決している。例えば、歩行補助具や手すりなどの導入により、高齢者の転倒防止や移動のしやすさを向上させている。また、最新の福祉用具は、見た目や操作性も向上しており、利用者の心理的負担も軽減されている。

テーマ② 「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」

カウイクスウィング 霜出 拓邦さん

「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」について、カウイクスウィング 霜出 拓邦さんが講演する。霜出さんは、福祉用具メーカーとして、利用者や相談員との連携を重視している。具体的な事例として、利用者の生活環境やニーズに合わせて、最適な福祉用具を提案している。また、福祉用具の普及促進のための取り組みについても触れる。



リアルタイムな情報活用で業務効率化満足度向上

リアルタイムな情報活用により、業務効率化と満足度の向上を実現している。例えば、最新の福祉用具の情報をリアルタイムで共有することで、相談員の対応が迅速化している。また、利用者の生活環境やニーズをリアルタイムで把握することで、最適な福祉用具の提案が可能になっている。

テーマ③ 「科学的な介護の実践」

ヤマシタ 吉村 忠寿さん

「科学的な介護の実践」について、ヤマシタ 吉村 忠寿さんが講演する。吉村さんは、科学的な介護の実践を重視している。具体的な事例として、最新の福祉用具の導入による介護の効率化や、利用者の生活環境の改善について触れる。また、科学的な介護の実践のための取り組みについても触れる。



「チャットGPT」で選定の妥当性を検証

「チャットGPT」を利用して、福祉用具の選定の妥当性を検証している。例えば、利用者や相談員のニーズや生活環境をチャットGPTに入力することで、最適な福祉用具の提案が可能になっている。また、チャットGPTの活用による相談員の負担軽減についても触れる。

テーマ④ 「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」

トーカイ 杉村 和彦さん

「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働」について、トーカイ 杉村 和彦さんが講演する。杉村さんは、福祉用具メーカーとして、利用者や相談員との連携を重視している。具体的な事例として、利用者の生活環境やニーズに合わせて、最適な福祉用具を提案している。また、福祉用具の普及促進のための取り組みについても触れる。



「レンタルの強み」再認識した12年

「レンタルの強み」を再認識し、福祉用具の普及促進に取り組んでいる。例えば、最新の福祉用具のレンタルサービスを提供することで、利用者の生活環境の改善や、相談員の負担軽減を実現している。また、レンタルサービスによる福祉用具の普及促進についても触れる。

シオホンス「Emi」シリーズ

足底サポート機能追加

理想的な食事姿勢・飲み込みのしやすさを実現

「Emi」シリーズは、足底サポート機能を追加し、理想的な食事姿勢や飲み込みのしやすさを実現しています。また、最新の福祉用具の導入による介護の効率化や、利用者の生活環境の改善についても触れる。

福祉用具専門相談員研究大会

リアルランチョン・オンライン併用セミナー

「幸せに暮らすための食べる支援」開催

「幸せに暮らすための食べる支援」について、リアルランチョン・オンライン併用セミナーを開催する。具体的な事例として、最新の福祉用具の導入による介護の効率化や、利用者の生活環境の改善について触れる。また、セミナーの開催日時や参加方法についても触れる。

テーマ⑤ 「福祉用具安全利用に向けた取組」

日本基準寝具 吉岡 徹さん

「福祉用具安全利用に向けた取組」について、日本基準寝具 吉岡 徹さんが講演する。吉岡さんは、福祉用具の安全利用を重視している。具体的な事例として、最新の福祉用具の導入による介護の効率化や、利用者の生活環境の改善について触れる。また、福祉用具の安全利用のための取り組みについても触れる。



定期訪問の重要性、670人のモニタリングで主張

定期訪問の重要性を主張し、670人のモニタリングを実施している。例えば、最新の福祉用具の導入による介護の効率化や、利用者の生活環境の改善について触れる。また、モニタリングの実施による福祉用具の普及促進についても触れる。

開催概要

日 時：2023年6月22日(木)

場 所：KFCホール(国際ファッションセンター) ※オンライン併用

大会テーマ：「持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割～福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践～」

主催：第4回福祉用具専門相談員研究大会実行委員会

主なプログラム：全5テーマでの口述発表・シンポジウム、特別講演「医療・介護の連携と将来：30年間の進化を踏まえ2040年に備える」(田中誠一埼玉立大大学院准教授)、ランチョンセミナー1「幸せに暮らすための食べる支援」(小山珠美氏)、一口から食べる幸せを守る会理事長、協賛「シオホンス」、ランチョンセミナー2「介護保険福祉用具・住宅改修補助金の22年」(山内繁一支援技術開発機構理事長、協賛「パナソニックエイジフリー、ケープ、シオホンス、タイカ、パナソニックエイジフリー、フランスベッド、ベルモビル、松永製作所、モルテン」など

参加申込：申込みフォーム(QRコード)より6月16日まで受付中

2023年6月22日

「福祉用具サービスこそが介護保険の危機を救う」 専門相談員大会が開催



《 研究大会で挨拶する小野木孝二大会長（22日）》

22日、今年の福祉用具専門相談員研究大会が開催された。【Joint 編集部】

4回目となる今回のテーマは、「持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割」。副題として、「福祉用具サービスの科学的な介護の実践」を掲げている。参加者はリアルとオンラインでおよそ1300人。

「介護保険は財政逼迫、人材不足の2つの観点から危機に直面している」

大会長を務める日本福祉用具供給協会の小野木孝二理事長は、壇上でこう問題を提起。「これをどうカバーするのか、どのように混乱を避け、制度として存続させていくのかが問われている」との認識を示した。

そのうえで、「福祉用具は介護サービスの中でコスト的に最も安価だ。介護人材の不足を補うサービスでもある」と指摘。「つまり“2つの危機”を解消する社会的な役割を果たすことができる。その役割は今後ますます大きくなる」と語った。

続けて「だからこそ、正しい福祉用具を正しいタイミングで提供していくことが重要」と強調。「科学的なエビデンスに基づく判断がなされてこそその福祉用具事業だ。どこに焦点を当て、どのようなデータを活用し、どのような知識を用いるのか — 。専門相談員の専門性が問われていく」と呼びかけた。

来賓として挨拶した厚生労働省の担当者は、「科学的介護が求められている。福祉用具の提供でPDCAサイクルを回していくために、サービス提供内容や必要な情報を適切に記録して振り返るなど、エビデンスに基づいて対応していく必要がある」と説明した。今後の施策の方向性としては、「PDCAサイクルの推進を通じたサービスの質の向上、福祉用具の利用安全などに向けた更なる検討が重要」と述べた。

介護ニュースJoint 2023年6月22日

2023年6月23日

田中教授「変えられる未来は変えよう。でないと乗り切れない」 介護現場の革新を促す



《 講演する田中滋慶應大学名誉教授 22日 》

今年の福祉用具専門相談員研究大会が22日、リアルとオンラインのハイブリッドで開催された。【Joint編集部】

国の審議会の会長など多くの要職を務めてきた、慶應義塾大学の田中滋名誉教授が講演。人手不足がより深刻化する2040年を見据えた介護業界のあり方などを語った。

「このままでは2040年以降は乗り切れない」。田中教授は1000人を超える聴衆に対し、介護現場で様々なテクノロジーを活用していくことの重要性を訴えた。

これから介護ニーズが一段と高まっていくこと、人手不足が介護だけでなく幅広い業界で顕在化していくことなどをあげ、こうした全体のトレンドは大きくは変えられないと説明。「では何が変えられるのか。1つはICT化、DXなどで生産性を向上させ、サービスの質を落とさずに働く人の必要数を減らすことだ」と指摘した。

配膳や掃除、記録、見守り、体位変換の一部などを例に出し、「人手不足が避けられない以上、“これはどうしても人間でなければできない”ということ以外は、機械にどんどん任せていけばいい」と提言。「積極的に取り入れる努力をして、徐々に使い慣れていけば変わっていく」と対応を促した。

田中教授は最後に、「介護職は要介護者だけでなく、日本で日々働いている幅広い世代の人たちの生活を支えている。誇りを持ちましょう」とエールを送った。あわせて、「変えられない未来もあるが、まだ変えられる未来についてはやはり変えていく必要がある」と呼びかけた。

介護ニュースJoint 2023年6月23日

ChatGPT活用した 用具選定の検証報告も

第4回福祉用具専門相談員研究大会

第4回福祉用具専門相談員研究大会(小野木孝二大会長)が6月22日、都内で開催され、福祉用具選定にChatGPTを活用した取り組みや、福祉用具の安全利用など5テーマ38演題での口述発表やシンポジウムなどが行われた。

口述発表は「効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携」と比較した。ソフト

に利用者の身長や体重、疾病、歩行状態のADLなどの情報を入力したところ、専門相談員とほぼ同様の製品を選定した。AIの選定では高機能な製品に偏りがちなほか、

利用者心理や介護環境の読み取りは不得意などの課題もあり、専門相談員が介在してAIの苦手分野を補充する必要があると解説した。



特別講演「医療・介護

の姿容と将来・30年間の進化を踏まえ2040年に備える」でも、講師の田中滋(埼玉県立大学理事長・慶応義塾大学名誉教授)が介護現場の介護テックとICT、DX対応の必要性を強調。「介護以

外にも人材不足は深刻であり、処遇改善を行ったからといって改善するものではない。人でなければできないこと以外は介護ロボットや福祉用具、ICT機器活用などを活用して生産性を上げることも重要で、その際『誰が、何のために使うのか』という視点が重要」とした。

来年の第5回大会は初めて東京を離れ、大阪・千里ライフサイエンスセンターで6月19日に開催される。

会員ログイン
メンバーページ入り口

メールでのお問い合わせ

福祉用具メーカー
からのお知らせ

災害協定について

当協会について

事業案内

福祉用具選定士

日本福祉用具協会の
様式・書籍等のご紹介

会員専用無料法律相談

会員専用総合補償制度

入会についての
資料請求はこちらから

地域毎の活動

当協会が実施した
調査研究事業

リンク集

「福祉用具の日」



一般社団法人
日本福祉用具供給協会

〒105-0013
東京都港区浜松町2-7-15(三電舎ビル4階)
TEL 03-6721-5222 (代)
FAX 03-3434-3414

第4回 福祉用具専門相談員研究大会

持続可能な介護保険制度に向けた福祉用具サービスの役割
～ 福祉用具サービスにおける科学的な介護の実践 ～

祝辞

[伊藤 孝江 \(いとう たかえ\) 参議院議員](#)
[田村 憲久 \(たむら のりひさ\) 衆議院議員](#)
[古屋 範子 \(ふるや のりこ\) 衆議院議員](#)
(五十音順)

動画アーカイブ



開会式・特別講演

開会式		00:00:47～
来賓挨拶	内田 正剛 様 厚生労働省老健局高齢者支援課 福祉用具住宅改修指導官	00:09:41～
特別講演	田中 滋 様 埼玉県立大学理事長	00:16:42～



口述発表1 効果的な福祉用具の利用促進、福祉用具メーカーとの連携・協働

座長：勝平 純司 氏

東洋大学 福祉社会デザイン学部 人間環境デザイン科学 教授

中石 真一路 ユニバーサル・サウンドデザイン (株)	00:01:16~
霜出 拓邦 (株) カクイックス ウィング	00:11:31~
巖 英二 パラマウンヘルスケア総合研究所	00:23:12~
小寺 紀之 重政 亮太 (株) ヤマシタ	00:33:54~
小泉 美紀 (株) カクイックス ウィング	00:43:59~
塩入 隆広 (株) カクイックス ウィング	00:54:11~
杉村 和彦 (株) トーカイ	01:04:22~
池田 信也 (株) トーカイ	01:14:43~



口述発表4 科学的な介護の実践

座長：山下 陽子 氏

アルジョ・ジャパン (株) マーケティング部クリニカルトレーナー

中田 賢 (株) ヤマシタ	00:00:58~
------------------	-----------

布施 貴幸 エジライフ (株)	00:12:04～
生沼 拓馬 (株) トーカイ	00:22:53～
山本 尚哲 (株) カクイックス ウィング	00:32:23～
小田嶋 賢 (株) かんきょう	00:43:43～
大田 健介 (株) カクイックス ウィング	00:54:35～
萩原 里咲 (株) ヤマシタ	01:06:10～
吉村 忠寿 (株) ヤマシタ	01:15:58～



シンポジウム・閉会式

シンポジウム	0:00:04～
閉会式	1:01:57～



口述発表2 福祉用具安全利用に向けた取組

座長：淵上 敬史 氏

(株) ウィズ ASチーム課長

近藤 大輔 (株) ヤマシタ	00:01:10～
-------------------	-----------

八木 梓 (株) ヤマシタ	00:09:33~
佐藤 啓孝 (株) 柴橋商会	00:19:55~
川野 友裕 (株) カクイックス ウィング	00:30:20~
吉岡 徹 角南 拓磨 日本基準寝具 (株)	00:39:53~
小島 みさお 国際医療福祉大学大学院	00:51:47~
佐藤 聡志 (株) 同仁社	01:03:28~



口述発表5 地域、多職種連携、事業所の取組

座長：高砂 裕子 氏

一般社団法人南区医師会 居宅介護支援事業所 管理者

高橋 成太 フランスベッド (株)	00:01:37~
竹崎 修一 (有)スマイルケア	00:10:53~
上田 啓輔 (株) マルベリー	00:20:31~
平尾 知義 (株) マルベリー	00:30:41~
福田 和也 (株) ウィードメディカル	00:39:31~
行田 壮一郎 (株) ヤマシタ	00:50:15~
山田 健太 (株) 同仁社	01:00:29~
田村 知之 (株) サンメディカル	01:11:09~



口述発表3 経験3年未満相談員の福祉用具導入事例

座長：畠山 浩 氏

エイジライフ（株）営業部統括課長

工藤 博 (株) マルベリー	00:01:34~
石井 介樹 (株) ヤマシタ	00:11:02~
村木 円香 (株) フロンティア	00:20:43~
植木 涼平 松尾 俊作 (株) ヤマシタ	00:30:28~
古閑 沙織 (株) ランダルコーポレーション	00:40:33~
田中 慶之 (有) 猪木酸素	00:50:41~
熊崎 峻弥 (株) トーカイ	01:00:31~



老健セミナー・事業報告

老健セミナー	谷澤 由香理 様 エム・アール・アイ・リサーチアソシエイツ（株）	00:00:04~
老健事業報告	（一社）日本福祉用具供給協会 （一社）全国福祉用具専門相談員協会	00:29:03~

第4回福祉用具専門相談員研究大会 大会組織

大会長 小野木 孝二 (一般社団法人日本福祉用具供給協会理事長)
副大会長 記虎 孝年 (公益社団法人関西シルバーサービス協会理事長)
大会顧問 幸田 正孝 (元 厚生省事務次官)
山内 繁 (元 国立障害者リハビリテーションセンター研究所長)

第4回福祉用具専門相談員研究大会 実行委員会

委員長 米本 稔也 (フランスベッド株式会社)
倫理委員会委員長 白澤 政和 (国際医療福祉大学大学院)
査読委員会委員長 東島 弘子 (国際医療福祉大学大学院)
委員 千葉 博 (株式会社サカイ・ヘルスケアー)
肥後 一也 (株式会社カクイックスウィング)
安居 寛道 (株式会社トーカイ)
古沢 林太郎 (株式会社トーカイ)
中村 一男 (全国福祉用具専門相談員協会)
川口 隆 (全国福祉用具専門相談員協会)
福島 伴彦 (全国福祉用具専門相談員協会)
柳田 磨利子 (全国福祉用具専門相談員協会)
池本 和樹 (全国福祉用具専門相談員協会)
伊藤 広成 (日本福祉用具供給協会)
淡路 陽子 (日本福祉用具供給協会)
運営協力 小林 毅 (日本医療科学大学)
顧問 酒井 博人 (総合メディカル株式会社)

次回告知

第5回 福祉用具専門相談員研究大会

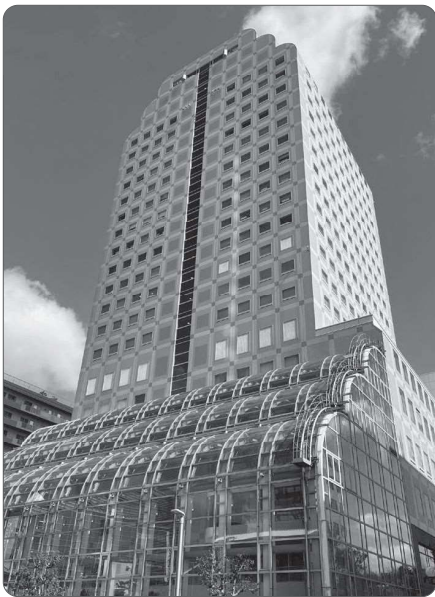
未来を支える福祉用具サービスの可能性
～ご利用者が自分らしく生きていくための福祉用具専門相談員の使命と役割～

2024年6月19日(水)開催

大会長

記虎 孝年

関西シルバーサービス協会 理事長



会場

千里ライフサイエンスセンター

大阪府豊中市新千里東町1-4-2

<https://www.senrilc.co.jp>

